

# すいせん

## 須崎の冬を思う

区長代理 森 豊春

須崎は、冬の厳しい寒さとは無縁の所である。沖の黒潮が温暖な流れを運んでくれるお陰だと思ふ。海は時には厳しく大暴れをして、大きな災害をもたらす事もあるが、私たちの生活に大きな恵みをもたらしてくれる。先祖代々の住む私たちは、これからの生活に多くの恩恵を受け続けられるように、今後とも大切にしていかねばならないと思ふ。

須崎に帰ってくる前に住んでいた藤沢市は、近くに江の島などの海岸線があり、神奈川県の中でも温暖な地域と言われている。それでも冬になると冷たい風が吹き、年に数回は雪が降り積もった。雪が降るととても厄介で、日が当たると暖かくなるとすぐに溶ける。だが、気温が低く日当たりが悪いと滑りやすくなってしまう。また、勤めていた横浜市の学校では、一月、二月には霜が降り運動場が凍ってしまい、雨が当たるとそれが溶け始めドロドロに。雨上がりのような状態になり、運動場が使えなくなることもよくあった。そして、ひとたび雪が積もると、気温が下がる夜から朝にかけて凍り、日が出ると溶けて「ドロドロ」になり、その状態が一週間にわたって続くことも度々あった。それに比べて須崎は本当に温暖である、改めて痛感する次第である。

冬の風物詩は、暮れの「クリスマス」新年の「お正月」「どんど焼き」「成人式」「節分」など色々あるが、その中で須崎独特のものが「はんじょう」。



発行者 須崎協議会 文化厚生部  
下田市須崎1799番地  
須崎漁民会館内  
電話 0558(22)8056

題字:梅田祐先生

はんじょうという時期には「無病息災」「安全」「商売・盛」を願うもので、子供たちが赤い旗を持って、近所の各戸を廻る恒例行事である。自分たちが小さい頃には、子どもがたくさんいて、七、八本の赤い旗と一、二本の白い旗を年上の子が持ち、下の子たちをぞろぞろと連れながら男の子だけで廻った。昨今では、女の子も混ざってかなり少人数になってきているようである。今後は、危惧されるが、「はんじょう」の絶やしたくないものである。

観光的には、十二月下旬から年明け一月いっぱいある。自分たちが子どもの頃は、広い天草干場というイメージしかなかった。広々とした遊び場であり、おぼろげだが、祖母である又治郎屋のおばあさんから聞いた話であるが、「敬老会で水仙の球を植えたものだ」と聞かされたことがある。いざいざしても、多くの人たちの尽力により、五十年以上かけて守られてきた、三百万本もの水仙が多くお客さんの目を楽しませてくれる。この時期に爪木の浜へ行くときれいな景色と合わせて、今後とも大切にしたい。ゆかなければならないと心から思う。

須崎の冬については思いつくままに書いてみたが、この時期になると、よく食卓に出た、母の作った「イカ大根」のあまじよっぱい味が懐かしく思い出される。

## ご意見募集

市、区などへのご意見、ご要望、ご提言、ご質問

## 身近な話題

わが家の自慢、何でも結構。お寄せ下さい

須崎協議会事務所

## 古文書説明会について

文化厚生部長 森 豊春

古文書について研究されている各先生方に、それぞれの分野から須崎にとつての「歴史的な...」価値について語っていただきます。三重大学の塚原教授には、古文書の内容について、学生さんたちと一緒に解説していただく予定です。興味のある方は是非ご来場ください。○日時 令和五年三月三日(金) 午前九時〜十二時 ○場所 漁民会館 ○その他

来場はマスク着用でお願いします。入り口にて検温をお願いします。換気を心がけ、席は十分に間隔をとり設ける予定です。コロナ感染症の状況によっては、中止となることもありますので、予めご了承ください。

## ESCUITEE

### 一月の捕獲情報

20日(金) 括り罟 1頭 50㍉ 枚  
与惣佐の畑の寄せにて

〜お悔やみ申し上げます〜

16日 土屋 巽さん 75歳(茂左店)

## 一月の実施行事

- 1日(日) 新年船主会船折袴と船主総会
- 2日(月) 古着回収
- 4日(水) 古着回収
- 6日(金) カイロ健康施術会(憩の家)
- 7日(土) 早春フライワウオーク開国コース
- 8日(日) フラワーウォーク開国コース
- 9日(月) 成人の日
- 12日(木) 区協議会定例会
- 14日(土) 区協議会定例会(子ども会)
- 15日(日) どんど焼き早朝点火
- 18日(水) 古着回収/わらいの輪
- 21日(土) カイロ健康施術会(憩の家)
- 25日(水) カイロ健康施術会(憩の家)
- 31日(火) 爪木崎水仙まつり終了

## 二月の予定行事

- 1日(水) 古着回収
- 3日(金) カイロ健康施術会(憩の家)
- 4日(土) カイロ健康施術会(憩の家)
- 5日(日) 初午祭(須崎両神社)
- 8日(水) リサイケル分別収集
- 9日(木) 包丁研ぎと鍬の修繕(老人会)
- 11日(土) 区協議会定例会
- 15日(水) 古着回収
- 17日(金) カイロ健康施術会(憩の家)
- 18日(土) カイロ健康施術会(憩の家)
- 22日(水) リサイケル分別収集
- 23日(木) リサイケル分別収集
- 28日(火) 須崎区協議会出納閉鎖
- 消防団夜警最終日

## LINEの行事

- 1日(水) 古着回収
- 3日(金) 古文書保存説明会
- 4日(土) カイロ健康施術会(憩の家)
- 5日(日) 津波避難訓練
- 8日(水) リサイケル分別収集
- 9日(木) わらいの輪
- 15日(水) 区協議会定例会
- 17日(金) 古着回収
- 23日(木) カイロ健康施術会(憩の家)
- 26日(日) リサイケル分別収集
- 須崎区通常総会

# 水仙を通して知ったこと

浜崎小学校 校長 菊池 正仁

この「すいせん」でも何回か紹介させていただいてきた浜崎小学校の水仙の花もいよいよ盛りが過ぎたようにも思いますが、これから咲きそうな蕾もまだまだたくさんあり、もうしばらく目と鼻と心を楽しませてくれそうです。今回の寄稿に向けて、水仙の花ことばなどを紹介しながら書いてみようかと考えていたところ、思いがけず様々な水仙の情報が楽しくなってしまうほど。可憐な花で芳香を持ち、古くから日本だけでなく世界中で親しまれている花だそうです。私などより、ずっと水仙に関する事に詳しく、精通している須崎区の皆様にとつて、すでにご存知のことばかりかもしれませんが、しばらくお付き合いください。

古くから日本で自生する「ニホンズイセン」という品種があるのですが、水仙の原産地は日本ではなくスペインや北アフリカなどの地中海とされています。平安時代に中国から伝わって野生化したという説のほかに、中国辺りから流れ着いたという説もあります。

水仙の群生地が爪木崎をはじめ日本各地の海岸近くに多く見られることから、その可能性があるようにも思いますが、皆さんはいかがでしょうか。

水仙の学名「ナルキッソス」はギリシャ神話に出てくる美少年にちなんだもので「ナルシスト」の語源になっているようです。そのため、水仙の花ことばは「うぬぼれ」「自己愛」になっているのも、その神話によるものようです。個人的には、美少年の部分はうなずけるのですが、花ことばについては、ヨーロッパの方たちの感性の違いを感じました。しかし、もう少し調べてみると、水仙の色や種類によって花言葉は違つことが分かりました。

白は「神秘」、黄色は「私のもとに帰って」、ピンクは「上品な」、ラッパスイセンは「尊敬」、口紅水仙は「素敵な装い・詩人の心」ということでした。この多様な見方からわかるように、水仙のかかわりの深さは世界共通なのかもしれません。

「ニホンズイセン」は冬の寒さにも負けず花のないこの時期に花を咲かせます。可憐さの中に凛とした強さも持ち合わせています。原産地は地中海でも、お正月の生け花に使われる機会も多く、日本の文化に溶け込んでいる花だと思えます。先日、十年に一度と言われる寒波に見舞われました。それでも、浜崎小の子供たちの病欠は少なく、元気に登校しています。休み時間には、多くの子供が外に出て遊んでいます。寒さに負けず花を咲かせている水仙とも重なります。予定されている行事も順調に進められています。これからまだまだ寒い日が続きます。須崎区の皆さまも何卒体調管理にご留意ください。

## 〈 1 月 の 学 校 の 様 子 〉

1/25 3年生陶芸教室 去年、コロナでできなかった4年生も行いました。思い思いに作品作りをしていました。



1/19・26 今年から保護者の方の協力を得て、読み聞かせ会を開いています。子供たちも楽しい行事になりました。



1/12 書き初め会 3～6年生が一堂に会し、集中して書き上げました。



### 須崎で見られる野鳥

丑嶋 久雄

22、カラス(烏、鴉) 日本で見られるカラスは主に二種類、ハシボソガラスとハシブトガラスです。ハシボソガラスはユーラシア大陸に広く生息していますが、ハシブトガラスの分布は東アジアと南アジアに限られています。嘴の太さの他はほとんど同じように見えますが、ハシブトガラスの方が体が少し大きく、体長56cm、翼開長100cm、体重550〜750gほどです。どちらも全身が光沢のある黒色をしており、雌雄同色です。食性は雑食で、昆虫や木の实、動物の死骸など、あらゆるものを食べます。また、スズメなどの小鳥やネズミ、リス、昆虫、鳩などの生きた小動物を捕食することもありますが、カラスの平均寿命は10〜15年ほどと言われ、それに加え、森から安全でエサも豊富な街に移り住むことで爆発的に数を増やしました。胡桃などの硬い殻を割るために道路に落とし、車に轢かせるなど利発です。カラスの知能は5〜7歳児と同程度であるという説も存在しており、実際にIQテストなどによる証明が行われているそうです。

こんなカラス語も知られています。  
「カ、カ、カ」... 餌を見つけた、仲間を呼び寄せる時に鳴く。「こつちに食べ物があるよ」という意味。  
「カッカカッカ」... 鷹などが近づいてきたことを仲間に知らせる時に鳴く。「危険だよ」という意味。  
「クア、クア」... ねぐらに帰ろうとするカラスが発する鳴き声。「安全だよ」という意味。  
カラスは黒くて不吉な印象があり、「烏鳴きが悪いと人が死ぬ」という言い伝えがありますが、古来、吉兆を示す鳥だったようです。日本神話で、熊野に上陸して大和国へ向かう神武天皇を三本足の「八咫鳥(やたがらす)」が松明を掲げ導いたと伝わっています。日本サッカー協会のシンボルマークはこの八咫鳥です。



カラスに関するエピソードは沢山ありますが、こんな民話を見つけた。  
「カラスは元々白い鳥だったが、フクロウの染物屋に綺麗な色に塗り替えを頼んだところ、黒地に金や銀で模様を描けば上品で美しく仕上がると考えたフクロウは、いきなりカラスの全身を真っ黒に塗ってしまい、怒ったカラスに追い掛け回され、今ではカラスが飛ばない夜にしか表に出られなくなった。カラスはいまだにガアガアと抗議の声を上げています。」

「カ、カ、カ、なぜ鳴くの? カラスの勝手でしょう」と歌った「志村けん」が懐かしいですね。